



愛川ふれあいの村 今月の風景

2025年2月 自然のたより

列島を強い寒波が覆い、日本海側を中心に大雪を降らせています。春はまだ遠いのかなと思っていたら、関東は去年より2週間も早く2月15日に春一番が観測されました。嬉しい春の便りではありますが、それでも、早咲きの桜の開花は例年よりも2週間ほど遅れているらしいです。気象の変化は生き物たちに直接影響を与えます。「今まで経験したことのない〇〇」が、いつの間にか当たり前になってしまう怖さは、私たち人間にとっても同じです。人間の所業が原因なら、人間が元に戻す必要があります。(高梨)



春光に映えるホトケノザ



久しぶりのカニムシ3兄弟



飛翔するハイタカ



咲き始めたカワツザクラ



春の七草、ナズナ



梅の花にホソヒラタアブ



風で飛ぶイヌシデの種



越冬中ツマグロヒョウモン蛹



成虫越冬ツヤアオカメムシ



ウスタビガの繭



藪から出てきたアオジ



可愛いツグミ



獲物をくわえたモズ



シジュウカラ



メジロとサザンカ

トピックス

★節分★

今年の節分は2月2日。2日が節分になるのは、2021年以來4年ぶりで、2021年からさらに遡ると、1897年以來だそうです。

節分に食べるものが2つありますね。一つは豆まきのお豆。よく使われるのは、煎り大豆ですね。「鬼は外」と邪気を払い、「福は内」と福を呼び込む。最近では、落花生をまく家庭もあります。北海道や東北地方、新潟県、九州の一部に多いそうです。「サイズが大きいため雪国でも雪の中から見つけられる」「殻があるため、撒いたものも食べられる」「地域の落花生生産量が多い」などの理由が挙げられます。サイズが大きいと、小さいお子さんの誤飲を防げるからと、幼稚園・保育園の行事で豆まきをする際にも、使われることがあります。

もう一つは恵方巻き。今年の恵方は西南西です。恵方巻きの具材は、七福神にちなんで、「かんぴょう」「しいたけ」「卵焼き」「ウナギやアナゴ」「エビ」「きゅうり」「桜でんぶ」が一般的。多くの福(具材)を巻き込んだ恵方巻きを食べることで、取り込んだ福が口から逃げないようにするために、目をつむって無言で食べ切ります。また、食べやすい大きさに切らず、1本を丸々食べるのは、カットをすることで「縁を切る」に通じないようにするためだそうです。願い事を思い浮かべながら食べると縁起が良いとされています。

昔から受け継がれる伝統行事には、それぞれ理由があるのです。私は長くて太い恵方巻きを無言で食べきれたので、きっと多くの福を取り込めたということで、今年1年幸せに過ごしていきたいものです。

ちなみに、管理棟窓口から見た今年の恵方は、右の写真の景色になります。(三好)



生き物

★フデリンドウ★

2月になると、山野草園の周辺に『フデリンドウ』の花が芽を出し始めます。地面から3cm程度しか出ておらず、芽と言っても蕾も小さいので、踏んでしまいそうになるほど。見つけた時には、葉っぱくらいしか見分ける手段がなく、「なんの植物だったかな?」と考えていたのですが、いろいろ検索ワードを引っ張り出して思い出すことができました。

村には『フデリンドウ』も『リンドウ』もどちらもありません。ただ、この2種類の違いは、大きさもさることながら、花が咲く時期が違います。フデリンドウは春、リンドウは秋に咲くので、見分けやすいです。

これから暖かくなるにつれて、山野草園の周りにはフデリンドウの綺麗な花が咲くことでしょう。(大瀧)



フデリンドウの花

旬

★菜の花★

春の訪れを感じさせる鮮やかな黄色で、小さな花がかわいい菜の花。目で見ても楽しく、食べてもほろ苦い大人の味が美味しいです。菜の花の苦みは、主に蕾に含まれるグルコシノレートが、酵素等の作用でイソチオシアネートに変化することで生まれます。イソチオシアネートには抗酸化作用があり、免疫力を高める効果等があります。生活習慣病予防効果のあるβ-カロテンや老化防止作用のあるビタミンEも含まれています。これらは脂溶性のため、油と一緒に摂取することで体内への吸収率が上がります。ソテーやパスタなどにして食べるのがおすすめです。

2月に出荷最盛期を迎える菜の花。ぜひご賞味ください!

(石川)



来月の見どころ
春を待つ生き物たち
風はまだ冷たいが、初春の柔らかな日差しの中で、あちらこちらの道端にカキドオシやナスナ、ヒメオドリコソウの花が咲き競って殺風景な景色に彩りを添えている。シソ科のカキドオシは子どもに「かんの虫」を取り除くのでカントリソウと言われている。
今年も、例年と違って晴天続きで斜面の土手も乾燥していて草木も全く元気がなく埃にまみれ、人や動物に踏みつけられて萎れていた。
しかし、そんな環境にあっても植物は新しい芽を出し始めていた。水分も少ない所でよく頑張っているなと感じた。よく見ると、シンガサゴケやヒメジャゴケが隠れるように生え水分を蓄え供給していたと思われる。この小さなつながりがお互いを支えあっていたのだ。これが一雨ごとに暖かさが増してきて植物が茂り、昆虫たちや鳥類、動物たちとも「つながり」が出来てくる。見た目は小さくか細いけれどみんな支えあっている姿に気持ちも温かくなってくる。(吉田)